

ティーチング・アシスタントの体験による教育者としての実践力と 資質能力向上の分析

水本絢子¹⁾、岡本真実子¹⁾、加藤千代子¹⁾、中窪萌子¹⁾、富永小百合¹⁾、眞鍋美晴¹⁾
安原由子²⁾、飯藤大和²⁾、桑村由美²⁾、大坂京子²⁾、宮崎久美子²⁾、奥田紀久子²⁾

1) 徳島大学大学院保健科学教育部

2) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

1. はじめに

保健科学教育部に所属する大学院生は、医学部保健学科看護学専攻の1年生及び2年生の看護技術の演習にティーチングアシスタント（以下TA）として指導にあたっている。大学院生は、将来養護教諭という教育者を目指しており、TAという立場から演習での指導を通して様々な体験をし、学びを深めている。

文部科学省は、2010年度からTAが教育活動に参加することで、大学の教育研究活動の高度化を図るとともに、優秀な大学院生に対する経済的支援の強化や教育能力の向上を促す支援授業を行っている¹⁾。このようにTAの導入により、身近な存在であるTAから教えてもらえるという学部学生への教育効果と、TA自身も教育者として成長することできる利点があると考えられる。そこで、TAの体験が、教育者としての実践力や資質能力をどのように形成し向上させたかについて明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

1) 参加者

2013～2014年度に看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ演習にTAとして学部生の指導にあたった大学院生6名とした。

2) TA活動の内容

看護技術Ⅰ：ベッドメイキング、リネン交換、寝衣交換、清拭、洗髪、食事の介助など

看護技術Ⅱ：感染予防、排泄の援助（導尿、浣腸）、経管栄養、気管内吸引、酸素療法、採血など

看護技術Ⅲ：筋肉注射、皮下注射、静脈内注射、輸血の援助、包帯法、救急蘇生法など

これらの内容について、演習毎に事前に教員とTAで演習の指導内容や方法、注意点などを共有し、学生の小グループを担当し、指導を行った。

3) データ収集と分析方法

「TA体験が教育者としての実践力や資質能力の育成にどのような影響を及ぼしたか」というテ

ーマで60分間のブレインストーミングを行った。ブレインストーミングから抽出された内容を質的帰納的方法で分析した。まず、参加者はテーマに関連した内容について自由に語り、その内容を逐語録にした。次に逐語録の生データから、関連性のある内容についてまとめていき、コード化、カテゴリ化した。最後に、実践力と資質能力でコードを分けてまとめた。

4) 倫理的配慮

TAを行った学生個人が特定されないように、データの取り扱いには注意した。

3. 結果

分析の結果を表に示した。実践能力では「学生の考える力を引き出す関わりの大切さの気づきと実践」「学生自らの気づきを深める工夫」「学生の理解を助ける働きかけ」「学生の学習意欲向上のための声かけ」の4つのカテゴリにまとめられた。資質能力に関しては、「教育者同士の連携の重要性」「学生の将来を見据えた教育方法と姿勢」「TAとしての学習の継続と向上心を持つこと」「観察力」「教育を受ける立場に立った指導」「平等公平な心をもつ」「学生ひとりひとりの理解の重要性」の7つのカテゴリにまとめられた。

4. 考察

TA間でテーマについてブレインストーミングを行いカテゴリ化した結果、教育者としての実践力として学んだことは、学習者である学生の主体性を尊重する内容であった。山内は、TA体験による学びとして、教えることの難しさを学んだことが挙げられていたと報告し²⁾、TA業務を通して得られる教えることや学ぶことがTA自身の能力の向上につながっているということを伝える必要があるとしている。本研究の参加者は、TAが自分自身の学びであることを前提として、さらに学生が自ら学ぶ力を引き出すための関わりを実践力と考えている点は、特筆すべき点であると考えられる。

また、教育者としての資質能力として挙げられた「TAとしての学習の継続と向上心を持つこと」は、西村ら³⁾の半学半教の概念と同様に、TAの成長を示すカテゴリであった。教育者の資質能力

として、重要なカテゴリとともに、学習を継続する姿勢は、文部科学省の「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」で提言される学び続ける姿勢という重要な資質能力に気づいた上で、教育活動に取り組んでいることにあらためて気づかされた。

5. おわりに

今回、TAとしての学びについてブレインストーミングを行った結果から、ふだんあまり意識していなかったアシスタント活動の意義や役割が明確になった。今後は、TA自身の成長と学生の学修効果をさらに高めるために教育活動を深めてい

きたい。

引用文献

- 1) 文部科学省 HP:TA を活用した学生実験実習の充実事業
http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/1289692.htm(access 2014 November 10th)
- 2) 山内一祥：教育プログラムとしてのティーチング・アシスタント業務に関する考察，大学教育実践ジャーナル，8，39-44，2010
- 3) 西村悠，古川康一，小林郁夫：学生アシスタント制度の導入による半学半教の実践報告，プロジェクトマネジメント学会予稿集，397-407，2011

TA体験による教育者としての実践力と資質能力に関する学び

カテゴリ	コード	ローデータ	
実践力	学生の考えに耳を傾ける	学生の考え方を聞く、学生の考えに耳を傾ける 学生の考えを尊重する態度を見せる	
	学生の考える力を引き出す関わり の大切さの気づきと実践	考える力を育てる関わりの実践 (能力の向上)	学生に答えを考えてもらうヒントを言えるようになった
		考える力を育てる関わり の大切さへの気づき	答えを言う前に自分で調べて もらう大切さ 答えをあたえるのではなく 考えさせることで学びを 深める重要性
	学生自らの気づきを深める工夫	他の方がしているのを客観視 させたり、自分の足りないところ や間違いに気づかせる	他者の技術を見て気づくことが ある 自分の足りないところや間違い に気づかせることができる
	学生の理解を助ける働きかけ	気軽に聞いてもらえる存在	常に笑顔で親しみやすさをもち 気軽に聞いてもらえる存在で いる
		タイミング良く学生に声をかける	困っている子への声かけ 困っていそうときに声をかけると 質問しやすい
	学生の学習意欲向上のための 声かけ	学生の学習意欲向上のために ほめたりアドバイスをする	学生のできている所をほめ改善 していける点を伝える。
	教育者同士の連携の重要性	学生の理解を深めるために事前 に教育者間での共通理解をはか る	事前に他の先生方との連携し 共通理解する大切さ 学生の理解を深めるための授 業に関わる者での事前の確認 の重要性
		組織の一員としての指導のあり 方	分からないことには他の教員 と連携して取り組む 1人で動くのではなく他の教員 に相談し連携して動くこと
	学生の将来を見据えた教育方法 と姿勢	広い視野で考えられる学生を育 てる教育	チームの一員として連携や協 力を図り、学生が仲間や周囲と 同調性を持てるよう教育する
	学生の将来に視点を置いた教育 内容や指導方法	目先のことだけの指導ではダメ 。将来をみすえた教育 これからの成長を踏まえた上 での言葉のかけ方	
資質能力	学生と共に考える姿勢	自立を促すよう働きかけ 学習者に「指導する」のではなく 「共に考える」姿勢をもつ。	
	TAとしての学習の継続と向上 心を持つこと	常に新たな知見を取り入れ学 び続ける努力	常に学び続ける(分からないこと だけでなく知識を深める) 常に新たな知見を取り入れる (これまでを見直す) 多くの学生への目配り心配り
	観察力	全体と個人を把握できる観察力	学生が今どういう状況なのか みえる視点が広がる 手が止まっていたりプリントを 何度も見ているときグループで 話しているときなど、迷って いるということに気づく視点
	教育を受ける立場に立った指導	自らの体験から得られる指導法	教えられる立場の目線に沿った 言葉を見だしながら関わる ことで子どもへの接し方を学 ぶことができる 自らの経験を通して相手に共 感や助言をすること
		教育を受ける立場から考えた指 導	教育を受ける立場に立って指 導すること(自分主導になら ない)
	平等公平な心をもつ	一貫した指導の重要性	それぞれの先生の指導内容が 異なれば、学生の学びに差が 生じる
		公私混同せず、平等な心で学 生に接する	公私混同せず、平等な心で学 生に接する
	学生ひとりひとりの理解の重要 性	集団としての理解と学生ひとり ひとりの理解も大切にする	集団としての理解だけでなく学 生1人1人の理解も大切にする